

令和4年3月17日発行
 京都府丹後保健所 保健課
 (丹後地域包括ケア推進課)

1 令和3年度オレンジロードつなげ隊・認知症地域支援推進員合同研修会の開催について

1月27日(木)に京都府主催の標記研修会がオンラインにて開催されました。

例年は夏前後に開催されていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、年度末近い開催となりました。

丹後管内からは13名の新規受講の申込がありましたが、当日は11名の方が受講され、新規隊員となりました。

★ 新規隊員の所属紹介

グループデイひだまりの家 2名	特別養護老人ホーム天橋の郷 2名	デイサービス満寿園 2名	佐濃デイサービスセンター 1名
宮津北部地域包括支援センター 1名	障害者生活支援センター結 1名	天橋の郷通所介護事業所 1名	デイサービス楓 1名

内容は、京都市長寿すこやかセンター及びチーム上京!による講義「認知症の人の『ために』から認知症のひと『ともに』」を聞き、グループワークで「本人を起点にした普及活動や地域での活動を考えてみよう」をテーマに意見交換を行いました。各グループからは地域特性を活かし、畑作りや地元企業を巻き込んだ居場所づくり、当事者本人が何かしたいと思ったときに協力できるような体制づくりなど様々な意見が出ました。

参考:チーム上京 / Facebook 

これらの内容を参考に、今後、オレンジロードつなげ隊としてできることを検討し、少しでも実現できるよう丹後圏域で進めていきたいと考えています。

例年は、年度当初と年度末に圏域連絡会を開催し、活動計画や振り返りなどを共有させてもらっていますが、コロナ禍につき、集合形式での会議開催が難しい状況でもあるため、オンラインも活用しながら進めていけたらと考えています。

改めて、ご連絡させていただきますので、ご自身なりにこのテーマについてイメージを膨らませいただき、次年度当初開催予定の圏域連絡会に臨んでいただければ幸いです。もちろん、既に取り組みされていることも情報提供いただけるとありがたいです。

参考までにグループワークの取りまとめを下記のとおり共有します。

宮津市グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○畑を作る。土地の選定、土づくり、何を作るか、作った野菜の販売まで当事者を中心に地域の方や周囲の方を巻き込んでの活動にしていく。 ○施設や建物のオレンジカラーのライトアップ 観光地でもあり、様々な場所でオレンジカラーのライトアップを行い、認知症の啓発や理解につなげていく。
京丹後市グループ1	<ul style="list-style-type: none"> ○本人のやりたいこと、特別なイベントではなく(そのための集まるのでなく)、「こんなことやりたい」「こんなことあったらいいな」の気持ち、言葉を拾い、本人の趣味や特技などを展示する。 ○展示会でつながりを作る(人と接する、話をする)場 ○福祉施設や薬局などいろんな年代の地域の人が集える交流スペースを利用して行う。 ○希望する人があればFM たんごなどで対談をする。

京丹後市グループ 2	<ul style="list-style-type: none"> ○人と関わること、地域の子どもが集まってくるような場所づくり（子どもが関わることで親世代も関わることになる） ○認知症が本業でないからこそ、地域とのHUB（つながり）になれると思う。 ○ベンチを置く。 ○オフィスを開放する（困った人が相談すれば、どこにつながるような場所になれば）。第一生命の社内、整理すれば15人くらい入れる。オフィス前の敷地は広く、ベンチを十分置ける。周知方法→チラシ（デイサービス利用者を書いてもらう）、市の広報（有線放送）、FMタンゴ、ケーブルTV等 内容→コグニサイズのDVDを会社（第一生命）で作っているので流せる。本人だけでなく家族も一緒に来るので相談できる専門職スタッフの配置。おでかけ認知症カフェ。 その他→定着するまでは場所は固定で、可能なら地域にそんな場所がたくさんできるようにねばらばよい。 ○どうしたらカミングアウトしてもらえるのか。認知症に対する考え方を変えたい。 ○当事者の交流する日を増やす。 ○事業所のお便りに利用者の声を載せて配布したい。 ○カフェを高齢者だけでなく、世代を越えた集まりの場、当事者が参加しやすい場に。
伊根町・与謝野町グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本、自分自身も楽しみながらやらないと、イヤイヤでは続かないし、できない。 ○集まる場所があれば、当事者の得意なことを募ってカルチャーセンターみたいな教室ができたらいい。 ○介護保険申請やデイサービス利用とまでは行かないような人たちが、ちょっとコーヒーを飲みながら話ができる、気軽に集まれる居場所のようなものがあつたらいい。 ○サポーター養成を受講した子供たちと一緒にふれあう機会があつたらいい。 ○当事者が「何かしたいな・・・」と言った時に情報（協力者や場所等）が提供できるようにする。サービスを使っておられる人はケアマネがついているが、そこまで行かない人の協力者を見つける（→地域のどこにどんな人がいるかリサーチ必要）。つなげ隊と協力して、フリープランだがその人のやりたいことにマッチングする協力隊のようなものをつくる。

なお、グループの地域にこだわることなく、取り組みそうなアイデアについて、検討していきたいと考えています。

2 府内オレンジロードつなげ隊の活動ブログについて

コロナ禍でなかなか啓発活動を思うように実施できませんが、身近な活動をしていただいていますので、是非ご覧下さい。



<http://www.kyoto-ninchisho.org/>

きょうと認知症あんしんナビ